

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



黄土高原写真コンクール「緑化活動」部門賞受賞作(石田和久さん撮影)

### Contents

- GEN15周年を祝うみんなのつどい報告 ..... P 2
- 『みみずく基金』にご協力を! ..... P 3
- 多様性のある森林再生へ ..... P 4
- 夏のワーキングツアー予告 ..... P 5

2007.3

114

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

## 緑の地球ネットワーク 第13回会員総会のご案内

今年の暖冬少雪、過ごしやすくはありましたが、スキー場をはじめあちこちに経済的な打撃があったそうですし、いまから水不足が心配です。

冬は-20~-30℃になる大同も、今年は暖冬だったようです。大同の場合心配なのは早魃と虫害。また、春先の気温の変動が大きければアズノの凍害も気になります。異常気象の影響を大きく受ける黄土高原の環境を少しでもよくするためにも、より一層の緑化がのぞまれます。

昨年予定していた訪日団が、都合により延期になってしまいましたが、今年はぜひ実施したいと思います。みなさまのサポートをお願いいたします。

今年の記念講演は、大同で菌根菌利用の育苗を指導していただいた小川眞先生にお願いしました。最近『白砂青松再生の会』代表として、日本や韓国の海岸林再生に取り組んでおられます。フィールド経験も豊かな、菌根菌第一人者の小川眞先生にどんなお話をしていただけるか、楽しみです。

### 【緑の地球ネットワーク

#### 第13回会員総会】

- 日時：6月16日(土) 13時30分～16時40分
- 記念講演：13時30分～15時  
小川眞さん(大阪工業大学客員教授)
- 会員総会：15時20分～16時40分
- 場所：大阪市立総合生涯学習センター

第2研修室(大阪駅前第2ビル6階各線「梅田」駅、JR「大阪」駅/東西線「北新地」駅)

★終了後、懇親会を予定しています。今年は場所をあらためて、アルコールもいれながら、立食形式でと考えています。会費は4,000～5,000円程度の子定。GEN会員はもちろん、会員以外の方でもお気軽にご参加ください。詳細は次号でご案内します。



## 有志のチームワークが GEN の活動の縮図

### GEN15周年を祝うみんなのつどい報告

1月27日、大阪弥生会館で「GEN15周年を祝うみんなの集い」が開催されました。

北京在住の宮崎さん、北海道の棟方さんをはじめ、関東、広島など遠方からもたくさん来ていただいて、53人の集まりとなりました。

小寺さんのあいさつで開会。乾杯は石原忠一顧問に音頭をとっていただきました。石原顧問は、最初の緑化協力団団長として大同を訪問されたとき、この活動は20年は続けると公言されたそうですけど、もう4分の3。遠田先生や高見さんがよくおっしゃっている「言霊」ってやつでしょうか。気が急ぎ過ぎかなとは思いつつ、つい、20周年に思いが行ってしまいます。

しばらく飲み食いしつつ歓談した後、全員で自己紹介。一人一分間という短い中に、皆さんそれぞれのお人柄やGENの活動に寄せる思いが込められていて、GENの活動は本当にいろんな人の協力で成り立っているんだなあ、と

八木 丈二 (GEN世話人)  
改めて感心しました。

そもそもこの会、GENの事務局がある関西で、15周年のイベントがあらへんやんか!ということを見かねた有志が集まって企画したもの。いわば、この「つどい」はGENの活動の縮図ですね。

たとえば、ぴったり予定の時間通り進める見事な司会の松島さん、大同市栄誉市民のお祝いに、記念の銘をボトルに彫り込んだウイスキーを高見事務局

局長にプレゼントすることを発案、用意された松井さん、大同の経年変化がつぶさに分かるDVDを編集された石原務さん、そのDVDをきれいに見てもらおうと重い

器材をかついできてくれた青木さんとか、みんながそれぞれ自分のできることを持ち寄って一つのものを作り上げている感じが、とてもいいですね。個々それぞれは自由分子ばかりに見えて、全体としてはうまくまとまるのもGENのすごいところ。

久しぶりの再会もあり、終止和気藹々とした雰囲気、本当に楽しい時間を過ごすことができました。何度も集まって準備して下さった世話役の皆様、遠方からもお越しく下さった参加者の皆様、本当にありがとうございました。





## 『みみずく基金』をよろしく!

先号で募集した「サポート基金」の正式名称が決まりました。『みみずく基金』です。『カササギの森』とは鳥でつながり、また、生態系の頂点に近いところに位置する猛禽類は、大同でも復活が望まれていることもあって、『フクロウ』とどちらにするか悩んだ末、中国でのイメージの良さをとって『みみずく』に決定しました。ちなみに、『みみずく』は中国語で猫頭鷹（マオトウイン）といいます。

さて、『みみずく基金』ですが、目的と仕組みは次のとおりです。

### 【目的】

現在日本からの資金によって運営されている、大同事務所直轄のプロジェクトの経済的自立をサポートします。「白登苗圃」「かけはしの森」などのプロジェクトが軌道にのって、直轄プロジェクト経費をまかなうだけの収益が得られるようになるまでの支援です。

### 【仕組み】

1口1万円で寄付を募ります。A. 環境林センター、B. 霊丘自然植物園、C. 白登苗圃、D. かけはしの森の4つからお選びいただけます。指定がない場合

は、事務局で決めさせていただきます。また、20%は事務管理費としてつかわせていただきます。

1万円で、例えば次のようなことができます。

#### A. 環境林センター

・バラなどの花木を 240 株購入できます。  
・新疆ポプラの挿し木用の枝を 520 本購入できます。

#### B. 霊丘自然植物園

・クコやエンジュなどを 60 株購入できます。

#### C. 白登苗圃

・マツ苗 13,200 株を育苗できます。  
・トショウ苗 870 株を購入できます。

#### D. かけはしの森

・果樹苗 116 株を購入できます。

\* \* \* \* \*

ご協力くださった方には、協力者証を準備中です。すでにご協力いただいた方、申し訳ありませんがもう少しお待ちください。

また、4プロジェクト共通の報告を作成してお送りします。

現在大同で頭を痛めているのが、急激な物価上昇と人件費の高騰です。と

くに人手がたくさん必要な環境林センターで問題は深刻です。その性質上多くの収益は望めない霊丘自然植物園とならんで、この緑化協力活動では大きな意義をもつ施設です。これらを支えるみみずく基金に、みなさんのご協力をよろしくお願いいたします。

## みみずく基金 キャラクター募集!

『みみずく基金』のシンボルキャラクターデザインを募集します。チラシや協力者証などにつかわせていただきます。みみずくを図案化したもので、モノクロ・カラーを問いません。ただし、原案がカラーでも実際につかうときにはモノクロになる場合があります。

ハガキ大程度の紙に書いて GEN 事務所あて郵送いただくか、JPEG ファイルをメールに添付してお送りいただいてもけっこうです。締め切りは4月16日(消印有効)。たくさんのご応募お待ちしております。

## いますぐできる GEN への協力

上記『みみずく基金』以外にも、次のような内容で協力を募っています。

### ◆会員になってください!

まだ会員になっていない方、ぜひ会員になって GEN の活動をささえてください。また、環境問題や国際協力に関心をお持ちの知り合いに、会報の購読などをすすめてください。

### ◆緑化基金、運営カンパもとむ

金額はいくらでもけっこうです。みなさんの応援をお願いします。

### ◆書き損じはがきを集めています

(書き損じ年賀はがき大歓迎!)

書き損じはがき、古い未使用のはがきを回収しています。通信費にあてています。あまったり書き損じた年賀はがきをご家庭にあれば、ぜひお送りく

ださい。お待ちしております!

### ◆商品券などをお寄せください

ご家庭で眠っていて使うあてのない図書券、文具券、各種商品券がありましたらお送りください。

### ◆ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN 事務所から連絡します。

### ◆出版物を購入してください

『ほくらの村にアンズが実ったー中国緑化協力の10年』高見邦雄著/日本経済新聞社/本体価格1,600円 (GENでは1,600円+送料で取り扱っています)

『中国黄土高原～砂漠化する大地と人び

と』橋本紘二写真集/東方出版/本体価格6,000円 (GENでは送料込み6,000円で取り扱っています)

※ご注文は GEN 事務所まで。

\* \* \* \* \*

### ● GEN は認定 NPO 法人です ●

GEN は国税庁の認定をうけ、2005年6月1日から認定 NPO 法人になりました。認定 NPO 法人への寄付は寄付金控除等の対象となります。

○個人の場合、「寄付金額-5千円」を所得金額から控除できます。

○企業の場合、一定の条件下で寄付金を損金として扱うことができます。

○相続・遺贈による財産を寄付した場合、相続税の課税対象になりません(対象になるのは相続税の申告期限までに寄付されたものです)。

## 多様性のある森林再生へ

### 霊丘自然植物園を軸に新プロジェクト

このたび、国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業を受託することが内定し、夏から「太行山における多様性のある森林再生事業」をスタートさせることになりました。

ベースになるのは1999年春にスタートした「霊丘自然植物園」です。その前年、霊丘県の技術者に周囲の植生調査を頼んだところ、人里離れた山奥で自然林がみつかりました。日本の専門家によると「種はちがいますが、属のレベルでは日本の東北地方や北海道の森林と共通しています」とのことでした。自生樹種を中心とした多様性のある森林再生のモデルづくりが私たちの課題として大きく浮上してきたのです。

その自然林から遠くないところに86haのひと山の100年間の使用権を確保し、放牧と柴刈りを完全に排除して自然の再生を待つ一方、自然林から種子を集め、育苗しては植え広げてきました。それから8年。当初に予想したのよりはずっと大きな成果をあげつつあります。

海拔1,000m以上のところではリョウトウナラ、シラカンバ、トネリコ、野生のモモなどの落葉広葉樹が繁茂し、最大のは樹高10m、胸高直径15cmほどまで育ってきました。落ち葉や枯れ枝を落として土を肥やしますので、生育はさらによくなります。良性の循環がはじまってきたのです。

アツモリソウやユリなど草花もふえ、時期になるとさまざまな高山植物が花を咲かせます。



放牧がなくなり、草木がどんどん茂ってきた

小鳥の種類や数も増加してきました。いろんな木の実を食べると肥料（糞）といっしょに蒔いてくれますので、植物の種類もふえてきます。

新たなプロジェクトがスタートすれば、多くの日本の専門家に協力を求め、敷地内と周囲の植生調査を実施し、より多くの種類の樹木や葉草なども園内に導入したいと思っています。また現地から日本に招いての研修も実施します。

大同は北京・天津という大都市や華北の穀倉地帯の水源であり、風砂の吹き出し口でもあります。そのために森林再生の多くの国家プロジェクトが集中してきましたが、その最大の問題は単一樹種の一斉造林が多いことです。気候変動や病虫害発生の危険を考えると問題があります。新たなプロジェクトで多様性の確保に道を開くことができれば、大きな可能性を切り開くことになるでしょう。

（高見）

リョウトウナラがすっかり大きくなって枝葉もしげり、根元に立つ李向東さんがよく見えないほど



カワラヒワ（池本和夫さん撮影）



### ラジオご聴取 ありがとうございました！

3月8日、9日の2日間、NHKラジオ「ラジオ深夜便〈こころの時代〉」で、高見事務局長のインタビューが放送されました。早朝4時過ぎという時間だったにもかかわらず、早速9日からたくさんのお電話、メールをいただきました。近頃は新聞などに載ってもあまり反応がないことが多かったので、会員さんから「聞いたよ〜」とか、はじめての方から「協力したいのですがどんなことをしたらいいですか」とか、「高見さんの養女が日本に留学するときにはうちに下宿してください」などとあたたかいお電話・メールをたくさんいただき、びっくりするやら嬉しいやら。どうもありがとうございました。これからもよろしくお願いたします。

### ブログ・ホームページを よろしく

高見事務局長が日中友好協会の新聞「日本と中国」（5のつく日発行）に連載中の『黄土高原レポート』、5年目に入りました。インターネットでも読んでいただけます。

<http://blog.goo.ne.jp/takamik316>

北京の呉文莉さんのボランティア翻訳で、中国語版もできました。

<http://blog.sina.com.cn/u/1254565527>

とても丁寧で工夫をこらした翻訳です。中国語を学習中の方、参考になると思いますので、ぜひご覧ください。GENのサイトのトップページからリンクしています。

GENのサイトのリニューアルも鋭意(?)作業中です。ときどきチェックしてみてください。

## 2006 夏の黄土高原ワーキングツアー予告

オリンピックを前にわかえる北京の背後にあって、沙漠化がすすむ黄土高原の農村で、たくましく生きる素朴な人たちに、会いにいきませんか。

黄土高原ワーキングツアーの特徴は、地元の人とともに木を植えるだけでなく、数々の活動拠点を訪ねること。環境林センターや白登苗圃、実験林場“カササギの森”、今春本格的に始動する“かけはしの森”。大きく広がったソフト面の協力をごらんください。

もちろん、子どもたちとの交流や農家でのホームステイなど、おなじみの活動も用意しています。新聞やテレビでは、あの黄土の埃っぽさ、あの村人の暖かい笑顔、あの子どもたちの目の輝きは伝わりません。ぜひ、自分自身で体験してみてください。

●日程：8月1日（水）～8月8日（水）8日間

●費用：一般＝185,000円、学生＝176,000円（予定。国際航空運賃、中国国内での交通費／食費／宿泊費、

GEN年会費を含む。航空保険料、燃油特別付加運賃、空港使用料、個人行動時の費用、旅券取得費用、個人でかける旅行保険料は含まない）※中国国際航空利用 ※関西空港発着 ※成田便利用希望の方へ…関空便との差額がかなり大きくなると予想されます。関空便利用をおすすめします。成田便ご希望の方はGEN事務所までお問い合わせください。

●訪問先：中国山西省大同市（北京経由）

●定員：30名

※募集は5月ごろ開始します。お問い合わせはGEN事務所まで。

\* \* \* \* \*

今回、夏の黄土高原ワーキングツアーは、旅行社の主催旅行というかたちで実施することにしました。といっても、旅行社の添乗員がつくわけではなく、ツアー自体はこれまでと変わりません。GENのスタッフ、大同事務所のスタッフ、北京東方之星手配の通訳がツアーを案内します。



GENの黄土高原ワーキングツアーは、幸いこれまで大きな事故にあうことはありませんでした。しかし、中国の交通事故増加や世界的に高まってきた新しい感染症の恐れなど、今後考える非常事態への対処をよりの確なものにするために、経験豊かな旅行社の知恵と力を借りるのがいいのではないかと考えました。どうぞご了解ください。

参加申込み手続や旅行費用の支払いなど、これまでと変更になる部分もあります。会報次号で詳しくご案内しますので、それまでのお問い合わせはGEN事務所までお願いします。

### 新・大同におけるGENの緑化協力－2－

## かけはしの森

まもなく新果樹園プロジェクト「かけはしの森」がスタートします。これは、小学校付属果樹園とは違い、大同事務所が直轄する果樹園です。大同県「白登苗圃」の隣接地に20haの敷地を確保し、今春から本格的な植栽作業を始めます。

緑の地球ネットワークは15周年を迎え、緑化協力は新たな段階に入りました。今後の最大の課題は、現地プロジェクトの経済的な自立です。大同で展開している様々なプロジェクトを、長期的に支えるための経済基盤の確立が急務となっています。この新果樹園の収益で、他のプロジェクトを経済的に支えることにより、現地の自立を目指します。

同時に、有望な新品種の果樹を試し、普及していくことも主な目的としています。アンズ、スモモ、リンゴ、ブド

ウなどの果樹の他、有用植物も栽培します。すでに現地の広範囲の農村で果樹栽培が始まっていますが、この新果樹園で新たに優良品種を導入・研究し、栽培・管理方法を普及できれば、さらに農村の経済的自立に貢献できます。

また果樹栽培は、環境改善にも大きな効果をもたらします。穀物や野菜と違い、一度苗を植えてしまえば、土壌を掘り起こす必要がありません。土壌中で根をはり、風が吹いても土壌は巻き上がりやすく、雨でも容易に流されないため、土壌浸食が軽減されます。また数年経つと、剪定した枝が貴重な燃料になり、山の木を伐採する必要がなくなるため、周囲の植生も自然と回復します。さらに収入は雑穀と

比べ10倍以上になり、放牧への依存度も低下します。一石三鳥ですね。

2007年春は10haからはじめます。昨秋すでに10ha分の整地作業、作業道建設、井戸掘り、水路建設などのインフラ整備が終わりました。4、5年後には一面に色とりどりの果樹の花が咲き誇ることでしょう。そして収穫された果樹の収益が、現地のプロジェクトを支える。そんな時が、今からとても楽しみです。（会田）



全国都市下水道対策連絡協議会のツアーが建設労働（06年6月）

## 植物屋のこぼれ話 (続編) その12

立花 吉茂 (GEN 代表・花園大学客員教授)

### ●世界が危ない

日本の2月上旬は1年でもっとも寒い旬である。にもかかわらず3月、4月なみの気温が続く。いまや温暖化と異常気象は異常ではなくなった。『水不足が世界を脅かす』(サンドラ・ポステル著・家の光協会)という書物には、近未来の地球の問題点が「水」と「食糧」であると記されている。また『リサイクルしてはいけない』(武田邦彦著・青春出版社)という書物には「地球が危ないのに人びとは目先のことしか考えていない」とも記されている。大学で環境科学の講義をもっているので「幾つかの環境問題の書物」を貪り読んで「地球が危ない」というタイトルで講義をした。これをまとめて1~2の成人団体にも講演した。メドウス博士の未来予測(図1)にはため息がでるが、こればかりではない。もっと近い日本の近未来は飢餓の地獄である。日本が危ない。

### ●日本が危ない

世界の先進国で日本は水にはもっとも恵まれている。だから世界の水の危機には鈍感である。いまの日本は水の少ない地域から食糧を輸入して飽食の状態である。世界の食糧生産地帯をみると日本のような天水農業ではない。河川からの灌漑農業であり、また地下水汲み上げの灌水農業である。灌漑農業は塩害に悩み、灌水農業は地下水の下降に悩む。そして水のもっとも豊富な天水農業の日本では食糧生産者は5%にすぎない。95%の人びとは農業も漁業もしたことがない。食糧の70%を輸入にたよっている。間もなく「ウルグアイ・ラウンド」は解放されることになっている。そうすると、日本人の好きな米が安価に輸入される。「外国の米は、まずい、怖い」などと考えたら大間違いである。「ヒトメボレ」や「コシヒカリ」のようなヒット品種が安価に入ってくるのである。海外の生産者はてぐすねひいて待っているのだ。これによって日本の生産者5%は3%ぐらい

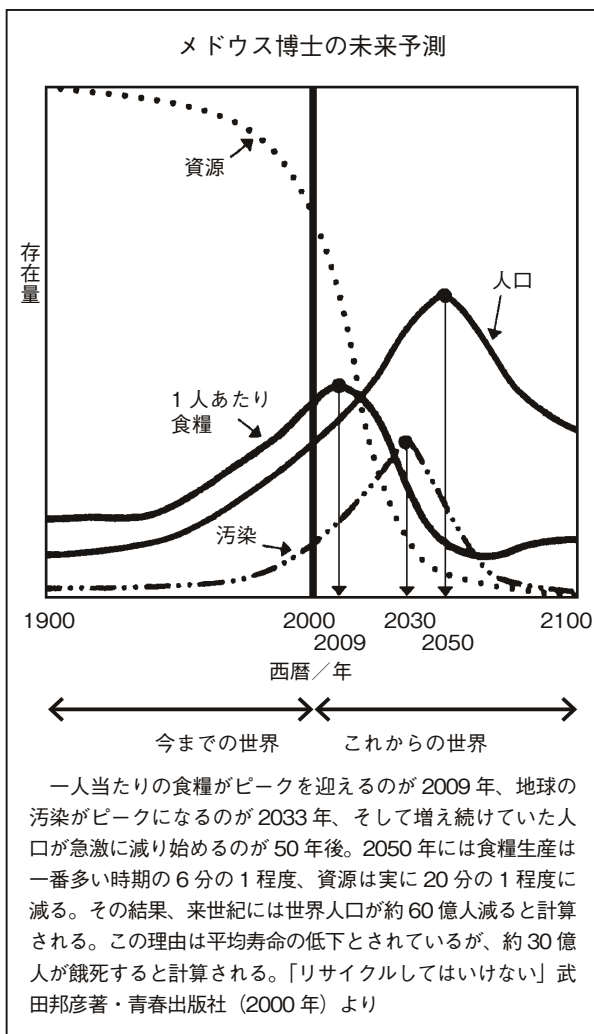
になるかもしれない。ここまではまだ良い。消費者は国内産、外国産を値段によって買い分けられるからである。

### ●20倍の人口が!

中国とインドの経済発展は目をみはるものがある。世界第2位の日本の経済力が20倍もの人たちに勝ち得るであろうか? 追いつけ追い越せでITと

自動車は追い越されてしまった。いまからが問題である。彼らの農業人口の減少は目にみえている。農業は割のあわない職業であることは世界中の若者が知っている。所得倍増論をと考えた日本の総理大臣がいたが7%成長で20年足らずで達成し、農業人口は激減した。中国の経済成長率は7%を超えている。10年後はどうなるであろうか? いま思えば終戦時日本には60%を超える農家があった。彼らがせっせと米を作って2合3勺の米が配給された。経済発展と農業人口の減少は明らかに相関している。経済力のあがった中国が大豆の買い付けで日本の商社と激しく競り合っていることが報ぜられた。あれほど嫌った遺伝子組み換え大豆を買わねばならぬ状態になってきているのである。次

は小麦であろう。ラーメンやパンやナンは小麦で作る。アメリカ、カナダは大部分が灌水農業である。地下水の低下はコストに響く。そこへ、買い手が増大する。値上げ必須だが、さあ、どうする、10年、20年後の日本はいつまでも高価な食糧輸入のできる経済力があるのだろうか。田圃があっても米を作る技術はない、魚がいてもとる術がない、こんなことが予測されるが、みなさんはどう思われますか?



### GEN 事務局からお願い

春は新しいスタートの季節。進学、就職、転勤などで引っ越しをされる方もおいでだと思います。新住所、電話番号、メールアドレスなど、新しい連絡先をGEN事務所までお知らせくださるようお願いします。



## 黄土高原史話〈34〉

ホワンリヤンドウイ

## 「谎糧堆」の正体は？

大同市の中心部から北東へ約 50 キロ。陽高県には、2000 年夏のワーキングツアーで一度行ったことが。その北端、<sup>しゅこうほ</sup>守口堡村で長城に登れば、眼下はすぐに内蒙古。尾根上には点々と、はるか彼方まで烽火台。長城線を背に、途中<sup>ほくとうが</sup>白登河を渡って東南へ数十キロ、前方に桑乾河\*を望む手前に許家窰遺跡あり。10 万年前、旧石器時代中期と推定され、本シリーズ<2>でふれたところ<sup>こじょう</sup>です。

これを少し戻ると、今回述べる古城堡漢墓群。その数、大・小あわせて 100 基ほど。大なるものは直径 35 メートル・高さ 6 メートル、小さいものだと直径 5 メートル・高さ 2 メートルばかり。底面は方形あるいは矩形に近く、がんらい方墳だったらしい。

ただし、この土饅頭、地元で語り伝える楽しい故事によると。

「宋の太宗が北の蒙古（実は契丹）と戦争したときのこと。老臣楊繼業（楊業）の第 6 子六郎は、一つの奇計を思いつく。土を盛って多数の小山を築き、それを兵糧の山と見せかけて、味方には十分な備えあることを敵に誇示、戦わずして撤退させた、と。ゆえにこれを「谎糧堆」（偽りの糧食の山）と言っている、云々。」

やめときゃいいのに（! ?）、この伝説の真実が明らかにされたのは、1942

## 谷口 義介（摂南大学教授）

年、考古学者の発掘による。ちなみに、「発」には「あばく」の意味あり。

初め第 12・17 号墳から取りかかり、ついで小さな第 15 号墳へ。3 基とも、幸いなことに未盗掘。地表下 10 メートルも掘り下げて、ようやく木槨（木製の外棺<sup>そとがん</sup>）が現われる。もちろん木槨の自然的破損は免れず、副葬品もほぼ押し潰されてはいたけれど、比較的よく保存。遺物の種類も豊富で、多量。第 12・15 号墳からは、男女 2 体ずつの骨も。

ポイントをまとめると、土器・銅器・漆器、いずれも漢代の特徴あり。7 面出た銅鏡は精白鏡・連弧文鏡で、前漢の形式。五銖銭のなかに穿上横文のものが混じるが、これは宣帝時代（B.C.73～49）の五銖。木棺や古墳の構造なども、漢墓の通制。

つまり、これら 3 基の古墳は前 1 世紀代の漢墓とみて誤りない。

また、この附近に豊富な漢式土器の包含層や散布をみる。あるいは漢の郡県の所在地か。候補としては、代郡高柳県。前漢時代には、代郡西部都尉の治所であり、その西隣り雁門郡平城県（現在の大同）と並び、北辺の要地だった。

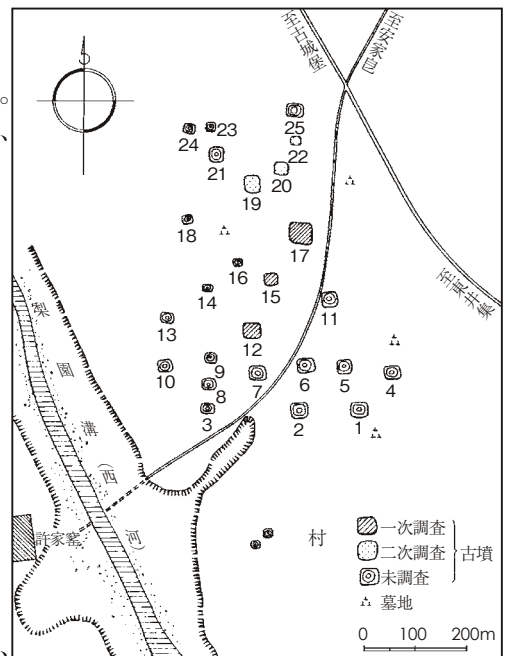
第 12 号墳からは「耿嬰」という印、第 17 号墳では漆器の上に「魯相」

の文字。墓主はおそらく高柳県の役人たちで、原則として夫婦の棺を納めるから、家族を伴っての辺地での生活。ただし豪華な副葬品は、かなり高度な文化生活を送っていたことを窺わせる。

60 体余出土した木偶のなかに、<sup>さしん</sup>左衽の女性像 1 例あり。左衽とは左前に衣服を着ることで、いわゆる北方遊牧民の風習。つまり、役人の家の召使のなかに匈奴の出身者も含まれていたということか。

武帝期を過ぎて宣帝の時代、漢と匈奴の関係は平穏なものとなっていたのでしよう。

\*編集部注：桑乾河は桑干河に同じ。



古城堡漢墓群（東部区域）

## 本の紹介

『不都合な真実』（アル・ゴア著／ランダムハウス講談社／本体 2,800 円）

アカデミー賞を受賞して、映画は上映を延長する館が出るヒットだとか。この本は映画を見るより高くつくけれど、手元においていつでも見ることができる。センセーショナルな音響や映像効果はないが、大判でカラー写真満載、視覚に訴えてくるものは大きい。

因果関係を証明することは意外とむずかしい。本当に温暖化ガスの増加が地球温暖化をまねているのか。太陽の黒点活動や地球の大きな気候変動だ

という説もある。でも、証明されるまで待つてはられない。温暖化ガスがこの 1 世紀あまりで急激に増加したのも、地球が温暖化しているのも事実。それなら、温暖化ガスをできるだけ出さない暮らしをしよう。まず、事務所のある 5 階まで階段をつかうぞ。

『チェルノブイリの森』（メアリー・マイシオ著／NHK 出版／本体 2,200 円）

チェルノブイリ原発の事故から 20 年。広島・長崎の原爆よりはるかに大量の放射能を放出したといわれるが、正確な量は誰も知らない。人間が逃げ出したチェルノブイリの街はいま廃墟と化し、放射能に汚染されたその周辺で野

生の動植物がたくましく生きている。

ウクライナ系アメリカ人の著者が、そんなチェルノブイリをレポートした力作。事故後 1 年で弁護士職を辞し、チェルノブイリの調査をつづけ、放射能汚染の恐ろしさをつぶさに見てきたはずの著者は、かつては原子力利用に反対していたが、地球温暖化を実感して、化石燃料にかわるエネルギー源の研究がすすむまでは原発もやむをえない、という考えに変わったという。子孫に放射性廃棄物というツケをまわしたくないが、温暖化によって子孫が暮らせない地球になるなら……。他に選択肢があることをせつに願う。



六甲奨学基金のための  
第10回古本市

ご家庭で眠っている古本を、アジアからの留学生・就学生の奨学基金に役立てませんか。去年は300万円をこえる売り上げがあったそうです。

- 受付期間：3月31日まで（必着）
- 送付方法：直接持参または送料送り主負担で送付

**【注意】**

- ・汚れ・破れのひどいものは不可。
- ・辞書大歓迎。絵本、マンガ、洋書可。
- ・雑誌、教科書、参考書、コンピュータ解説書、百科事典などは不可。
- ・お送りいただいた本は返せません。

●送り先・問合せ先  
 (財)神戸学生青年センター古本市係  
 〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1  
 tel. 078-851-2760 fax. 078-821-5878  
 e-mail : info@ksyc.jp URL http://www.ksyc.jp/

- ★六甲奨学基金のための第10回古本市
- 3月15日～5月15日まで毎日開催

\*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。  
 \*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

本の整理などのボランティアも募集しています。上記までお問い合わせください。

土佐文旦をどうぞ

低農薬、有機栽培です。春の香りをどうぞ。ご進物にしても喜ばれます。

A	5kg	3L	6～9玉	3,500円
B	5kg	2L	10～11玉	3,000円
C	5kg	L	12～13玉	2,500円
D	5kg	M	14～15玉	2,000円

10kg箱もあります。お問い合わせください。

- 送料別。関西630円、関東840円 他
- お申し込みは田中隆一さんまで。  
 〒781-7411 高知県安芸郡東洋町甲浦田中農園 TEL./FAX. 0887-29-2500  
 E-mail : tanakan@sky.quolia.com

※売り上げの一部をご寄付いただいているので、ご注文の際「GENの紹介」とひとこと添えてください。



編集後記

“軍隊を持たない国” コスタリカや、反米の盟主(?) ベネズエラなど、中南米の国々のいくつかはアメリカの影響下から脱して独自路線を歩んでいるようです。とはいえ、私にはあまり馴染みがなく、ボリビアの大統領が来日していたことも、ある新聞記事を目にするまでは知りませんでした。

「ボリビア憲法に戦争放棄条項を」という見出しで、ボリビアのモラレス大統領が東京で記者会見を開き、「憲法を改正して戦争放棄条項を盛り込む意向を明らかにした」というもの(毎日新聞3月9日)。戦争は勝とうが負けようが命が失われる、命を大切にするんだ、という主張はもっともです。軍の放棄にはいたらないそうですが、他国へ攻め込まないというのは、日本の憲法9条の精神と共通しています。共鳴してくれる人がいる、国がある。そんな憲法をもっている。これこそ、日本の誇りです。(東川)